

事前の質問内容	
1	Iビリーブでは、各人の特性や適性を考慮した指導も行われるのでしょうか？
2	就労支援事業所の違いがよくわかりません。Iビリーブの強みや特色を教えてください参考に使いたいです。
3	横浜市在住でなくても利用することは可能ですか？
4	支援付きの進路＝手帳就労と考えてしまいますが、現実的にどのような支援を受けられますか？どこまで要求してよいのでしょうか？
5	手帳なしでの支援はどのようなものがありますか。支援期間終了後はどのように福祉がかかわっていただけますか。

## &lt;回答&gt;

1 Iビリーブでは、各人の特性や適性を考慮した指導も行われるのでしょうか？

- ・苦手な事の克服に注力するのではなく、一人ひとりの強みを見つけ、強みを活かせるよう支援する事をコンセプトに置いています。会社の求めと本人の適性がマッチするよう就職活動を支援し、就職後は長く働き続ける事が出来るよう、定着支援を行います。(片野)
- ・就労移行では「強み」という言葉が重宝されますが、強みを就職に活かそうにも苦手が多すぎる自立訓練(生活訓練)の人たちにとっては、自分を感じがらめにして「苦手」とどう向き合うか(どうしていくか)が、避けて通れない日常です。わざわざ話題にはしなくても、十分気を遣いながら、今行動できる話を進めたり、ラクになるように環境を整えたりします。ここで楽しめるための配慮と言えば良いでしょうか。  
みんなと同じでなくて良い。いろんな経験から自分を見つけて、自分を好きになっていこう。たまには一緒にやるのもイイか…。それはご質問にある「各人の特性や適性を考慮した指導」というより、いろいろな利用者と一緒に歩いていける、伴走者・見守りのような接し方であり、高島町はそういう場でなくてはならないのだと感じています。  
実はこうした感覚を持った職員が新横浜(就労移行)にもいて、時折顔を出す「苦手な心の声」にフタをすることなく、寄り添って話を聴き入り、時には涙の力で浄化する。ゆっくり大人になって、確実に就職に近づいていく。高等専修学校から引き継いだ支援力がココにあります。(甲方)

2 就労支援事業所の違いがよくわかりません。Iビリーブの強みや特色を教えてください参考に使いたいです。

- ・横浜市内だけを見ても数多くの就労移行支援事業所があり、それぞれに特色があります。活動内容、利用者の年齢層、障害種別、職員の力量、事業所の雰囲気などです。就労移行支援事業所の8～9割は株式会社系でパソコン中心、1～2割が福祉系で作業中心です。
- ・その中でIビリーブの特色は、以下の4点です。( )内は強みです。  
①：利用者の年齢層が若い(就職に断然有利)      ②：岩谷出身者が約8割で、岩谷学園時代の雰囲気が随所に残っている(溶け込みやすい)  
③：作業の時間が多く、働く力や働く実感を得やすい(実戦力)      ④：きめ細かい支援で、本人のメンタル面をしっかりと支えている(安心感)  
※Iビリーブからの就労実績については、別紙「Iビリーブから就職した人」をご覧ください。(片野、甲方)

3 横浜市在住でなくても利用することは可能ですか？

- ・市外在住でも県外在住でも利用可能です。利用には居住地の役所の障害福祉課等で、受給者証の申請・認定調査をする必要があります。その時のお手伝いも行います。(片野)

&lt;裏面に続きます&gt;

#### 4 支援付きの進路＝手帳就労と考えてしまいますが、現実的にどのような支援を受けられますか？ どこまで要求してよいのでしょうか？

- ・就職に関するあらゆることを支援します。具体的には会社見学、実習、面接、HW等への同行や連絡調整、履歴書作成、面接練習等、担当職員を中心に、個別に息の長い支援をします。
- ・会社とご本人との間に立って、配慮事項を伝えていく事も重要な支援です。会社側も長く働き続けてもらう事を望んでいます。そのため、事前に障害特性やご本人独自の配慮事項を伝えることで、働く側、雇う側双方の安心感を引き出し、それが良い関係を築く第1歩になっていきます。（片野）

- ・「（ご家族が）どこまで要求してよいか」という問いですが、過去にはこんな経験をしています。

お母さんが、強い自閉の息子さんを「事務系で就職させたい」と2年以上要求し続け（コロナで3年目利用が認められ）、本人はお母さんの言葉を繰り返すため、職員はご要望に応じて、少しでも可能性のある事務系求人（事務＋作業等）を探し、何度も面接練習をしました。職場実習には在学中から合計6回行き、A型の実習では合格をいただきましたが、A型を振って3年目利用を希望されました。企業選択や結果報告のお手紙を19回送り、面接に15回同席して、落ち続けても「今日は、今までで一番よく頑張った面接でした」と、お母さんにお伝えし続けました。

そして利用開始から33か月目に、Iビリーブに採用通知が届いたのです。自宅から比較的近い有名な自動車工場の作業員としての採用でした。お母さんに「おめでとうございます」と電話をすると、静かに泣きながら「私、こういう時の言葉が…思い付きません」とお答えになりました。

就職後は、職員が仕事の覚えこみと関係作りのためにジョブコーチ（職場で個別に作業指導する人）に入りました。先輩障害者社員からの陰湿なイジメにお母さんが気づき、今までのお話を元に「本人との接し方マニュアル」（PP資料4-②）を作成して本人の気持ちを説明し、社内トラブルを切り抜けました。理解されにくい独り言のような言葉は今も変わりませんが、職場の本人理解を得て、就労は今月で丸2年となります。

これが私たちがめざしている支援姿勢です。「どこまで要求しても大丈夫」と言っているのではありません。「ご本人ご家族と職員で話しながら、着地点を見つけましょう」と提案しているのです。私たち定着支援に関わる職員は、この母子から多くのことを学びました。そういった信頼関係がIビリーブにはたくさんあります。一緒に作り上げていくための要求を、お待ちしております。（甲方）

#### 5 手帳なしでの支援はどのようなものがありますか。支援期間終了後はどのように福祉がかかわっていただけますか。

<この場合、2つのパターンがあります>

##### ①：手帳を取るつもりがない方が、クリニックの医師の意見書等でIビリーブを利用している場合

IB利用中は⇒就職は一般で行くしかないため、企業選択・情報収集等の就労相談や面接練習、書類作成支援、手続支援、入社後は会社外での面談や就職者の会への参加ができます。就労移行から一般に就職した場合は、IBの就労定着支援の対象となり、毎月の面談も受けられます。

IB終了後は⇒B型事業所などは使えず、HWの一般向け就職支援セミナーや学卒部門での相談、職業訓練校などに通っての就活になります。

生活面でも障害者支援施設は嫌でしょうから、若者サポートステーションや民間の支援機関（NPO）などを利用してください。

##### ②：手帳は持っているが、手帳を使わずにクローズで働きたいという場合

IB利用中は⇒①の場合と基本的には同じですが、②の場合は就職活動や就労継続がうまく行かない時に、支援機関が人事と話し、一部の人が知る障害者雇用に切り替えることが可能です。初めての障害者雇用なら助成金も取りやすいため、本人が納得すればOKです。

IB終了後は⇒障害枠やIB以外の障害者施設は嫌だという場合は、期限が切れた後も体験利用者として、IBに出入りできなくはありません。一般枠に応募しつつ、一般に近い環境の障害枠なら良いと思う可能性もあります。実は①の人も同様で、どこかのタイミングで手帳取得を考える可能性も充分あると思います。どちらにしても就活を続ける経験の中で、本人が決めていくことです。

※①でも②でも、一般で就職したものの付いていけず「うつ症状」となり、それがトラウマで、回復に年月がかかる人がとても多いです。（甲方）